

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度技術情報第14号（チャの炭疽病、新梢枯死症、網もち病）について（送付）

チャの炭疽病や新梢枯死症等の発生がやや多く推移している中で、8月11日から強い降雨が続いており、「やぶきた」などこれら病害に弱い品種を中心に発生増加が懸念されます。天候が回復したら、速やかに適切な防除を行ってください。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jpnp.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和3年度技術情報第14号

1 対象病害虫 炭疽病、新梢枯死症（輪斑病菌による）、網もち病

2 対象作物 チャ

3 発生状況等

- 炭疽病は発生ほ場率が5月から高く、7月も61%（平年：53%）とやや高かった。秋芽への伝染源となる発病葉数も11.1枚/m²（平年：7.3枚/m²）でやや多かった（図1）。
- 新梢枯死症（輪斑病）は7月の発生ほ場率が22%（平年：18%）と平年並みであったが、発病葉数は2.4枚/m²（平年：1.4枚/m²）でやや多かった（図2）。
- 網もち病は7月の発生ほ場率が7%（平年：2%）と高く、発病葉数も0.2枚/m²（平年：0.03枚/m²）で多かった（図3）。
- 8月11日から強い降雨が続く、感染しやすい条件となっていることから、秋芽での発生増加が懸念される。これらの病害は同時防除が可能で、下記を参考に生育状況に沿った適切な防除に努める。

4 防除対策

<萌芽期を過ぎたほ場>

- 降雨で薬剤散布を行っていないほ場では、既に炭疽病が感染している恐れがあるため、天候の回復を待ち、治療効果の高いDMI剤（EBI剤）を散布する。
- 萌芽期～1葉期に予防剤を散布していないほ場では、2～4葉期に予防剤と治療剤の混用散布を行う。

<これから萌芽期を迎えるほ場>

- 萌芽～1葉期に予防剤、3～4葉期に治療剤を散布する。または、2～4葉期に予防剤と治療剤の混用散布を行う。
- 萌芽前から降雨が続いている場合は、既に炭疽病が感染している恐れがあるため、2～4葉期に予防剤と治療剤の混用散布を行う。

＜その他＞

- (5) 予防剤と治療剤との混用散布は、炭疽病、新梢枯死症及び網もち病の同時防除が可能である。
- (6) 網もち病の常発園では、秋芽生育期後半（8月下～9月上旬頃）に、銅水和剤による追加防除を行う。
- (7) 伝染源の病葉が少ないほ場でも、今回の降雨により多発する恐れがあるので十分注意する。

5 参考データ

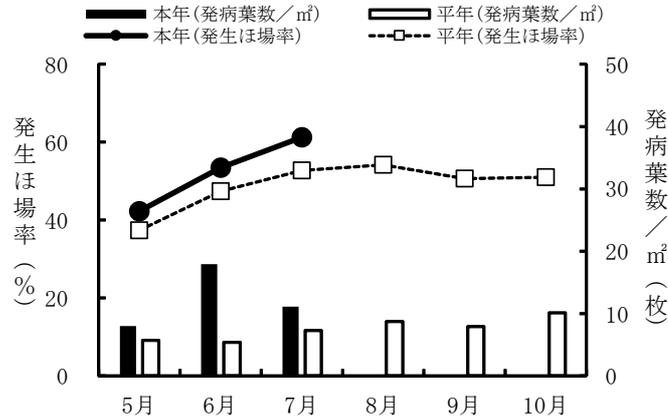


図1 炭疽病の発生ほ場率と発病葉率の推移

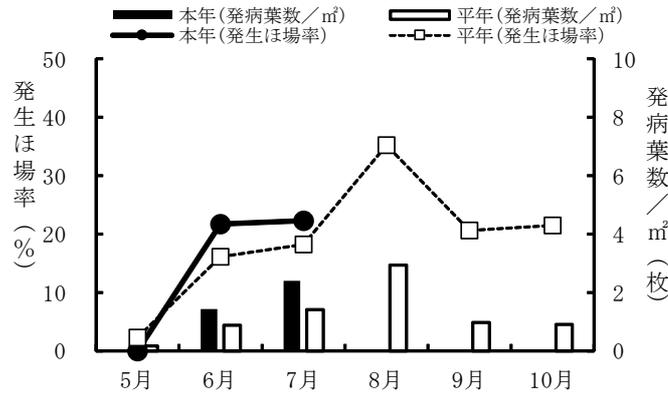


図2 新梢枯死症（輪斑病）の発生ほ場率と発病葉率の推移

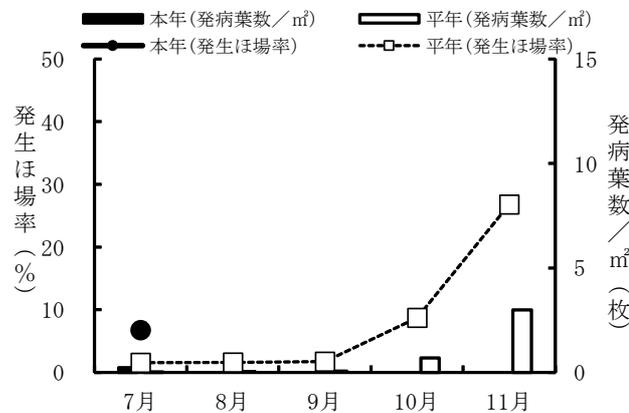


図3 網もち病の発生ほ場率と発病葉率の推移